一般廃棄物の目標の達成状況

資料１－１

・平成２７年度における目標値と平成２６年度速報値との比較を表１－１－１に示す。

表1-1-1 　目標の達成状況

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | Ｈ22年度（実績） | Ｈ27年度（目標） | Ｈ26年度（速報） |
| 排出量 | ３４６万ｔ | ２８２万ｔ | ３１９万ｔ |
| 再生利用率 | １２．２％ | ２２％ | １３．７％ |
| 最終処分量 | ５０万ｔ | ３５万ｔ | ３８万ｔ |

・平成２７年度における目標設定の考え方と平成２６年度速報値の状況について表１－１－２に示す。

表1-1-2　目標設定の考え方と平成26年度速報値の状況

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 分　　野 | Ｈ22年度（実績） | Ｈ27年度（目標） | Ｈ26年度（速報） | 主な要因 |
| 発生抑制 | 生活系 | 厨芥類（生ごみ）の「水切り」、「調理くず及び食べ残しの削減」を各家庭で実践 | 排出量２００万ｔ | 排出量１８３万ｔ（排出量８．７％削減） | 排出量１９０万ｔ | ・住民の発生抑制への意識の浸透により、厨芥類の「水切り」「調理くず及び食べ残しの削減」が実践されると期待されたが、目標値ほど削減が進まなかった。 |
| 事業系 | ①混入産業廃棄物の削減　②資源化可能な古紙類の削減　　　　　　  | 排出量１４５万ｔ | 排出量９９万ｔ①混入率２１％→１０％②混入率２１%→４％ | 排出量１２９万ｔ | ・産廃であるプラスチックの混入率が府内市町村における組成分析調査の事例では、約14～21％みられている。・資源化可能な古紙類の混入率が府内市町村における組成分析調査の事例では、約13～23％みられている。・混入の理由は、「手間の負担増」、「保管場所がない」。 |
| 再生利用 | 容器包装廃棄物の再生利用量の増加　　　　　　  | 回収量１６万ｔ | 回収量２８万ｔ容器包装廃棄物の回収率※３３．２％→６０％ | 回収量１６万ｔ | ・スチール缶は、消費重量減少により回収量が減少。（消費重量　685千t(H22)→611千t(H25)（出典：スチール缶リサイクル協会HP））・スチール缶及びアルミ缶の回収量が、軽量化により減少。（スチール缶：H25年：H16年比5.7％減量化、アルミ缶：H25年：H16年比4.1％減量化（出典：３Ｒ推進団体連絡会　第二次自主行動計画　2014年フォローアップ報告）））　 |
| 集団回収量の増加  | 回収量２４万ｔ | 回収量２９万ｔ１人１日当たりの回収量７４g→９０ｇ | 回収量２３万ｔ | ・新聞、印刷・情報用紙の生産量の減少により紙類の回収量が減少。　（新聞用紙生産量　3,349千t(H22)→3,134千t(H25)  印刷・情報用紙　9,547千ｔ(H22)→8,491千t(H25)（出典：「古紙ハンドブック2015」（公財）古紙再生促進センター）） |

※：回収率（％）＝容器包装廃棄物の収集実績量／排出見込み量×１００